

談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていることをお書きになって気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒950-112 白根市大字白根二二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



徐々に増える生徒数

山下 弘さん (大通一・会社員・39歳)

私が大通団地に移り住んでから、早いもので十二年目になります。当時は玄関に出ると五頭連峰が一望できましたが、今は家並みが多くなり、それも昔となりつつあります。

そのころ幼かった子供たちも成長し、わが家でもこの四月に長男が中学校入学の時期を迎えようとしています。しかし、近くにはまだ中学校がないので、白根第一中学校までスクールバスで通うことになりました。

バス時刻に間に合わない、自分自身で行くには遠すぎるので、親が送っていくと聞いています。また、夏休みの部活に行くときでも、自転車で一時間余りの道のりがあります。そしてまた、学校のマンモス化による弊害なども心配されます。

それで、以前から大鷲、根岸、大通地区に中学校の設立を市に要望中ですが、なにぶんにも予算がつかず、土地を確保するだ

の便もよく、大通南団地の造成、整備も進んでいます。そのようなかで今一つ人口の伸びが鈍っているのは、教育環境に問題があるのではないかと思います。資料によれば、六十二年度には約三百九十人の生徒が集まる計算で、その後徐々に生徒数が増えていきます。一日も早く、北部地域に中学校が開校するよう希望します。

やってきた大黒様と天神様は

わが家の大切な宝物

伊勢亀文字さん (古川 農業・47歳)



父は今年も、天神様の掛け軸の前に、紅梅の鉢植えを飾りました。天神講が来ると、雪国にも春が来たように家の中は明るくなります。

思えば二十年ほど前、今は亡き祖父の友達坊さんが家へおいでになりました。お坊さんは「夢知らせで寺の大黒様が、お宅へ行きたいと言われたのでお連れしました」と言われ、大黒様と、お土産に天神様の掛け軸を、わが家にくれました。私たちは「福の神様がおいで

になられた」と言って、たいへん喜びました。早速座布団を作り、床の間に大黒様を置きました。以来、仏様と同じく大黒様にも毎朝ごぜんを供えています。

最近盛んな社交ダンス

美容、健康に最適ですよ



湯川成之さん (五ノ町5・商店主・61歳)

社交ダンスは全身をリズムに合わせて軽快に動かすので、美容と健康、特に老化現象を防ぐのに適当な運動だと思います。



ともに学びたい日本語の「コロ」

道連れを求めて

中野徳平さん (大畑新田・農業・65歳)

相似象(カタカムナ)との出会いにより、上古代人たちのお

おらかさや重深さに触れ、自然の中の人間ということであらためて教わりました。日本語の創造史というスケールの壮大さに戸惑いながらも、ようやくなじみかけたところでした。これから自然(アタリマエ)を学び続けたいと思います。

カタカムナとは、人類社会の平和、親子夫婦の相合や健康な長寿など、よいとわかっていることをマントウに達成するための根拠を究明した上古代語で、漢字語や仏教語のまだ入らない原日本語です。それは天然、宇宙、自然界、人間界を通じる森

羅万象に相似の象があるという日本上古代民族の直感に基づく潜在物理(サトリ)です。カタカムナは、ヒフミヨイマワリテメクル ムナヤコトの四十八音に抽象された、日本語の思念(マココロ)を通じて、人間のアルベキ姿、生命のヨロコビを思考(カムカヘル)しています。現代の流行語「アイデンティティ」では表現できない奥というか基に、サヌキ・アワ(性のサトリ)やバ(環境)の力を考えるなど、一般常識にないものです。

こんなことを並べ立てると、いわゆる新興宗教と同一次元で評価されやすいですが、ときに



市民文芸

俳句

寒鮎にいろり困んで酌み交わす 玉木 長吉

紅梅や袂に忍ぶひとひらの 渡辺 勤

見かけない鳥も来ている沈丁花 大塚 豊治

川柳

婚約の顔が崩れるインタビュー 早川 英男

乗れないが乗せられて居る口車 山岡 フミ

気休めの言葉に返らない 吉川 彰

内紛の隙間へ漁夫の手が伸びる 吉川 末吉

エイズ世に出て我が身体こわくなり 米野 光雄

赤い薔薇この棘あるのが玉に傷 渡辺、ミヨ

七人の敵を鍵穴から覗く 今井 七郎

鳩の恋不倫もなくして只平和 今井 タエ

内紛の合間に化粧粧する 岡村 清

踊り着に替ると腰がびんと伸び 織田 セツ

酷使する包丁にも違る日曜日 後藤マサノ

湯の街の夜風が甘いふところ手 佐藤トミノ

妖しげな武器を駆使する夜の蝶 佐藤 ヨキ

日曜にまとめて稼ぐ三部経 高橋祐四雄

不一致の糸がもつれる夫婦服 竹石 甚五

甘い物に縁が切れない肥満体 田中 成子

主婦の手が素早く伸びる超特価 田村 恒夫

教科書にママの指紋が付きまどう 長井 徳市

防衛費賛成エイズが攻めて来る 中村 尚治

働き蜂週休二日もて余す 西条 ムラ

義理兼ねて一番に書く奉賀帳 野内熊太郎

短歌 春招く筈に飾りし雛々に 真春の日光は射して面映ゆ 中村 京

グループ紹介⑧

手話サークル「つばさ」



手話で全世界共通の「アイ・ラブ・ユー」

手話を覚え、広くろうあ者とのふれあいを求めていこうと、57年4月、社会福祉協議会が初めて行った手話講習会に参加した人たちが結成されたサークルです。

塩田充志会長は「高校に通っていたころ、新津市で開かれた手話講習会に参加し、白根にも手話を覚える機会があったらと思ひ、社会福祉協議会に働きかけて実現しました」と話しています。

現在の会員は、小学生からお年寄りまで、ろうあ者2人を含む20～30歳を中心とした20人。毎週金曜日の夜、青年教育センターで、うまい人を中心に会員どうして手話技術を高め合っているほか、花見やボーリング、新年会などで、会員の親睦を深めています。

「みんなで和気あいあいと、楽しくやっています。でも、手話は繰り返し勉強する必要があります。もっと活発に人が集まり初級者と中級者に分けてやるなど、さらに一歩先の段階へ進みたい」と塩田会長。

手話をいっしょに覚えてみたいという人は、社会福祉協議会(☎373-3096)へ連絡してください。

会員の声

堀口直人さん (曙町・会社員・33歳)



おとしの秋に入会しました。会社にろうあ者が3人いたので、作業を適確に教える都合もあったし、どんな気持ちで働いているのか知りたかったわけです。初めて手話で自分の気持ちを伝えられたときはうれしかった。私の場合は実践しながら肌で覚えていけるので、恵まれていると思います。